

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-112

学校名・団体名	熊本市立芳野小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/yoshino/index.htm
コース	学校支援
活動・研究テーマ	芳野百年桜の苗木を熊本の震災地に贈り元気を届けよう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本年4月14日、16日、熊本地方は震度7の大地震に2度も襲われ、甚大なる被害を受けた。益城町、西原村、南阿蘇村、熊本市など今尚多数の住民が避難所生活を余儀なくされている。また、各学校も様々な被害を受け、校舎が使えない、体育館が使えないなど、先が見えない学校生活を送っている児童生徒が多い。本校、熊本市立芳野小学校は、震源地から離れていたため、校舎崩壊などの被害はなく、現在は、ほぼ正常に学校生活が送れている。本校は、児童数56名の小規模校であり、厳しい震災地からは遠く、震災ボランティア等には参加できない。そこで、本校でできることはないかと、児童みんなで考えた。本校には、学校のシンボルツリー『芳野百年桜』がある。この桜は、昭和14年の校舎全焼時にも焼け残った桜で、樹齢100年を超える桜（ソメイヨシノ）の老木である。このほか、本校地ならびに周辺道路には百本以上の桜の木があり、春にはすばらしい「桜のトンネル」が出現し、訪れる多数の人々の目を楽しませている。そこで、ぜひ本校のシンボルツリー『芳野百年桜』や周辺の桜（ソメイヨシノ）の枝を芽接ぎし、その苗木を震災地の小学校に贈り、桜の木の成長を震災復興のシンボルにしてほしいと考えた。</p>	

2. 活動内容

- (1) 対象者 全校生徒 (56名)
- (2) 教科 総合的な学習の時間
- (3) ねらい 郷土熊本を愛する心を育てる
- (4) 活動の特色

①学校のシンボルツリー『芳野百年桜』について学ぶ、桜の保全作業(7月、3月) 講師 桜の名所づくりアドバイザー・樹木医 今村順次さん
一級造園施工管理技師・樹木医 今村龍子さん

②桜(ソメイヨシノ)の芽接ぎをして苗木をつくる(9月) 講師 桜の名所づくりアドバイザー・樹木医、今村順次さん、一級造園施工管理技師・樹木医、今村龍子さん、芳野さくらを守る会 会長 杉本清和さんはじめ会員の皆さん5名

本年4月14・16日の「熊本地震」では、多くの学校が被災した。中でも熊本市、益城町、西原村、南阿蘇村の被害はとて大きいものがあった。本校は、熊本市西区で金峰山の麓であるため、大きな被害はなかったが、地震の怖さは十分に知っている。テレビ等で映し出される被災地の映像を見ていて、私たちにも何かできないかと考えた。本校の「芳野百年桜」(図2)は、大火をくぐり抜けた古木である。春には、今なお元気に咲き誇る。「そうだ、芳野の桜を、再生復活のシンボルとして被災地の学校に贈ろう」という意見が出された。そこで、毎年お世話になっている「日本花の会」の樹木医と相談し、9月に芳野の桜(ソメイヨシノ)についての桜学習と桜の苗木づくり(一人一鉢)を実施する(図1)。この時、今年全国表彰(「全国さくら功労者」)を受けた「芳野さくらを守る会」の皆様にもご協力していただく予定である。このあと、当番を決め毎日の水やりと観察を続け、平成29年3月まで育苗する。そして、「熊本地震」の被災校である南阿蘇西小学校との交流会と桜の苗の贈呈式を現地で実施する。

④苗木を育てる(9月~3月)

⑤百年桜のマスコットをつくろう(9月~3月)

熊本市西区河内町の芳野小児童らが、校庭にあるソメイヨシノの苗木を熊本地震の被災地に贈る準備を進めている。樹齢90年を超える桜に、「被災者を元気にしたい」と思いを託す。ソメイヨシノは1921年、同小の前身・芳野尋常高等小学校の開校時に植樹されたという。周辺にはほかにも数十本が植えられていたが、39年の校舎火災で枯れ、2本だけが生き残った。高さ約3mの老木は県内最古ともいわれ、地域の人々にも親しまれている。

21日には、全校児童56人で苗木作りに取り組んだ。桜の保全活動を続ける樹木医や地域住民と一緒に、台木のオオシマザクラの根元近くに切り込みを入れ、1~2本のソメイヨシノの芽を挿し入れてテープで固定する「芽接ぎ」に挑戦。100本の苗木を作った。苗は子どもたちで育て、来年3月に阿蘇地域の小学校に贈る予定。花を咲かせるのはまだ先だが、6年の津出晴光君は「阿蘇の人たちが元気になるように、しっかり愛情を込めて育てます」と話していた。(馬場正広)

力強い桜被災地に咲かそう

芳野小・樹齢90年 児童ら苗木作り



(図1) 平成28年9月22日(木) 熊本日日新聞社



⑥甚大な被害を受けた、熊本県南阿蘇村の南阿蘇西小学校を全校児童で訪問し、桜の苗木の贈呈式と交流会を実施（平成29年3月7日（火））

ア）交流会（体育館で全校児童と）・両校校長先生あいさつ・代表による学校紹介・全校児童の交流会（グループ作り、じゃんけん列車など）・お礼のあいさつ（南阿蘇西小学校代表）

イ）祈念樹桜植樹（簡単な説明のあと植樹）・南阿蘇西小学校6年生27名と芳野4・5・6年28名で植樹（他学年は見学）

（5）成果 「まさか熊本で起こるとは。」熊本のほとんどの人々が同じ思いであったと思う。5年前の「東日本大震災」、そして「熊本地震」は、私たちに「日本人としてのよき人格と誇り」について強烈なメッセージを与えた。少ない水や配給品を整然と列をつくって何時間も待ち続ける人々の姿は「熊本地震」でも同じだった。狭い、暗い、寒い避難所の中で、互いに励ましあう人々。水道・電力・ガスの復旧のために昼夜を問わず作業しつづける多くの人々。映像に映し出される人々は間違いなく日本人である。外国の人々は、驚きの声を上げた。なぜ日本人はこんなすごいことができるのか。それは、日本人がこれまで受けてきた「教育の力」に他ならない。今、熊本は先のみえない不安の中にいる。しかし「明けない夜はない」という言葉のとおり、再び必ず昔の姿を取り戻すと確信している。私たちは「教育の力」の大きさを見つめ直し、子どもたちに「日本人としてのよき人格と誇り」を育むことが求められている。そのためこのころの教育の中心として環境緑化教育は、大変重要な意義を持っている。本校は今年で創立141年（明治8年に岳・野出・東門寺の3小学校ができた）。3小学校が統合され現在地に造られたのが大正10年。何もない山林地を切り開いての開校で、相当のご苦労があったという。このため本校は、多数の自然林の緑に囲まれている。春には、この時の開校を記念して植えられた桜（ソメイヨシノ）の古木である「芳野百年桜」（昭和14年の校舎全焼の時にも残った）やその後植えられた30本以上の桜が今も校庭・通学路に咲き誇る。このすばらしい緑の環境のよさを児童に感じ取ってほしい、そして母校の芳野小学校を誇りとしてほしいと考え、「芳野百年桜」を中心とした環境緑化教育の実践活動を実施していた。熊本地震は、その計画当初に起きた。そこで、再生DNAが強い「芳野百年桜」（熊本県で一番古いソメイヨシノ）の苗木を被災地に贈り励まそうというアイデアが子どもたちから上がり、学校全体で計画実施することになった。

今回の実践を通して、子どもたちは

- ① 熊本地震について真剣にまなぶことができた
- ② 熊本地震の甚大な被害を受けた阿蘇の小学校との交流を通して、防災の重要性、助け合うことの大切さについて学ぶことができた。
- ③ 自校の誇りである「百年桜」について深く学ぶことで、さらに学校・地域への愛情が深くなった。
- ④ 環境緑化活動を通して、命の大切さ、植物の美しさについて再認識した。
- ⑤ 全校児童と一緒に取り組むことにより、さらに仲間意識と自己肯定感が向上した。

なお、今回の実践は、熊本市主催「学校環境緑化コンクール」に応募し、その内容が認められ、熊本市内小学校95校の中から、最高賞である「熊本市賞」を受賞することができたことも、子どもたちにとって大きな励みとなった。（別紙：コンクール提出資料）

かつては、「自然の中を走り回って遊びながら、子どもたちは肉体を鍛え、観察力・判断力を養い、自然に関する理解を深め、社会性を身に付けてきた。きた。それらは心身の発達に不可欠のものであると同時に、学校教育を推進する基礎ともなっていたものである。」（熊本市学校緑化読本『学校緑化のすすめ』（昭和56年発行）とある。現在にこそ大切な言葉であると思う。今後も、熊本復興を祈念するとともに、子どもたちの心を育てる核として学校環境緑化活動を中心とした学校づくりを推進していきたい。

最後に、このような貴重な体験の機会を与えていただいた「公益財団法人 ちゅうでん教育振興財団」の心より感謝を申し上げたい。また、熊本地震への多大なるご支援に対しても、衷心より感謝申し上げたい。ありがとうございました。